

## A02-005 シートの脱着, ホイールのメンテナンス

Put on/Take off the Sliding Seat, Wheel mentenance

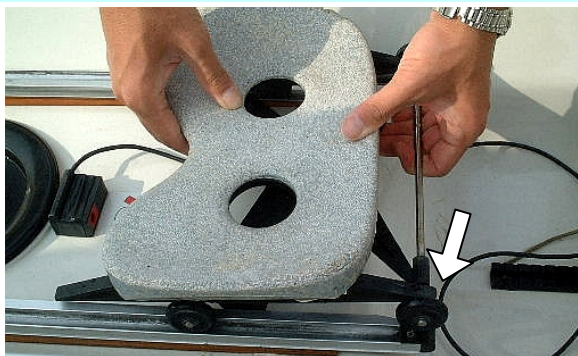
シートは通常の前後移動では脱線しないが、点検整備では取り外す。シートの外し方をよく知っておこう。シートの外し方を見ればエキスパートかどうかはすぐわかる。

### 1 ダブル・アクション・シート Double Action Seat

#### 1.1 正しい方法

4つのローラー(およびキャリッジ)を艇尾側に寄せて持ち、その状態のままフロントストップ側から「静かに」引き抜けば、簡単に外れる。(前輪が外れた後は、シート側を艇尾側に寄せた方が後輪は簡単に外れる。)

単純な基本原則だが、うまくできず力任せに脱着している例も少なくない。この作業を見れば、艇のメンテナンスを正しく指導されているかどうか、およそ見通せる。(次項)



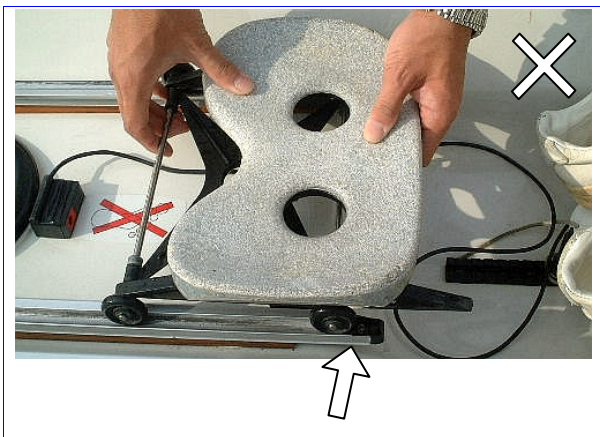
正しいはずし方。キャリッジを前に引っ張れば容易に外れる。

取り付けは、取り外しの逆の手順である。従来タイプでは、ローラーを艇尾側にした状態で、脱線防止のガイドの位置などをよく確認して、フロントストップ側から装着する。

#### 1.2 まちがった方法

普通にシートをフロントストップまで前進させた状態では、シートに対してローラーは後方(バウ側)に移動している。この状態では、ローラーと脱線防止用のガイドパネルが同じ位置にあって、脱線しないような仕組みになっている。

それにもかかわらず、このままシートを無理にたたいて外そうとしているケースが見られる。これはまったく間違った方法で、ボートの取り扱いを正しく指導されていない典型である。たいたい強く引っ張ったりして、無理に外そうとしてはいけない。シートの脱線防止用のガイドパネルやフロントストップを変形・損傷させ、脱線しやすくしてしまう。



間違った外し方。これで無理やり外すと、フロントストップを傷める。

### 2 シングル・アクション・シート Single Action Seat

#### 2.1 シングル・アクション・シートの着脱

最近(レール幅も広がりレールのストレッチャー側への延長が設計上容易となったため)、シングル・アクション・シートが主流である。シングル・アクション・シートは、レールのバックストップを外して着脱する。なお、後席のストレッチャーボードや艇の構造上、後ろからの着脱ができない場合は、フロントストップを外して着脱する。



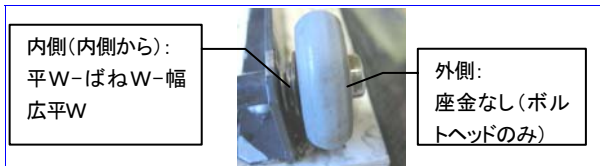
シングル・アクションでは、バック(またはフロント)・ストップを外す。

#### 2.2 ホイールの規格

ホイールには、封入一体型や、ベアリング・ユニットがスナップリング(穴用)で固定されたタイプなど複数のタイプがあり、ホイール外径にも複数の規格(例:約34, 36, 38mm/実測・小数点以下切上)がある。軸の内径は、6mmで互換性がある。ベアリングの規格は、刻印から径、外径、厚さなどがわかる。(例:NTN626ZZ: NTN製, ZZ:両側鋼板シールド型で、外径19mm×内径6mm×幅(厚さ)6mm等)

#### 2.3 メンテナンス

ホイール着脱時は、必ず正しいサイズのドライバー/レンチを用い、潤滑剤(CRC)を吹き、慎重に緩め、アタマをかじらないよう注意する。また、ワッシャ/スペーサの正しい順番を確認し、正しく組付けなければならない。ホイール外径を統一することが大切で、4つを同時に交換するのが基本である。



艇によって異なるスペーサを正しく組み付けることが重要

ベアリングは、潤滑・防錆に特に気を配る必要がある。CRCがグリスを溶出し、鋼製ベアリングの錆・腐食を加速させる場合もある。(ベアリングには、ステンレス製もある)。

ベアリングをスナップリングで固定したタイプは、スナップリングプライヤーを使ってスナップリングを外し、ベアリングだけを交換することもできる。



ホイールとそのベアリング、スナップリングプライヤーによる着脱。